

垂井町

みやしろ 宮代史跡マップ

史跡

①	お茶所跡	伊勢街道の休憩所
②	庚申塚	道祖神・宮代南の守護神
③	神田代神社 (みとしろ)	御田植神事が明治時代中頃まで当社齋田で行われた
④	宮代廃寺跡 (県指定史跡)	不破郡大領宮勝木実の菩提寺とも白鳳期～奈良時代の寺院跡花崗岩の心礎は三重塔と推定
⑤	常夜灯	江戸時代文政年間の常夜灯 (伊勢街道)
⑥	壬申の乱の大杉の跡	壬申の乱の最中に大海人皇子が逃げ込んだという伝説の大杉跡、大領神社に大杉の杉板を祀っている
⑦	森上古墳	江戸幕府四代将軍に学問を講義した不破惟益 (これます) の墓
⑧	石神(いしがめ)	宮代東の守護神
⑨	寄り添い桜	二本の山桜が支え合う 大慈寺地蔵堂の脇
⑩	芳賀為助の墓	岐阜県表彰第一号受賞者 (今の県民栄誉章)
⑪	腰掛石・鎧掛石	壬申の乱 (672) のおり天武天皇 (大海人皇子) の故事
⑫	清月院の仏足石	禅宗の尼寺で、境内には元治2 (1866) 年に建てられたお釈迦様の足形を石面に刻んだ仏足石があります
⑬	鉄塔山神社本殿 (元柏原宿本陣)	中山道60番目の宿場 (柏原宿) の本陣の一部を移築した (垂井町登録文化財)
⑭	お地藏さん	双体石仏、宮代地区には、屋敷内や路傍にお地藏さんをまつる家が多く8月24日の地藏盆は盛大に行われる
⑮	社宮司神 (遮軍神)	宮代北の守護神
⑯	きつね塚	山神、宮代西の守護神
⑰	古墳石室の石	かぶと塚古墳 (径35mの二段円墳) 跡
⑱	秀覚法印の墓	南宮神仏分離の折、真禪院朝倉移転の立役者
⑲	墓石	六十余州廻国巡礼者の墓
⑳	隣松寺	たくさんの石仏 地藏群 本尊延命地藏
㉑	享和2年の石碑	奉集納大乘妙典入塔 200年程前
㉒	大鳥居	南宮祭礼市場場野にある (平成の初めに建設) 高さ21m鉄製 東海有数のカール
㉓	吉葛神社 (よさつら)	南宮社への勅使が正装に着替えた「衣装堂」とも言う
㉔	宮処寺跡 (県指定史跡)	奈良時代の古代寺院
㉕	春王安王の墓 (県指定史跡)	足利持氏の遺児、京へ護送中金蓮寺で処刑された。墓には3基の宝篋印塔がある



宮代古道

朝倉運動公園

大谷池

道標

陣跡 (関ヶ原合戦)

㉑	左	お須 (徒) さか道 (牧田乙坂への山越え道)
㉒	左	おつさか道 (〃)
㉓	左	乙坂道 (〃)
㉔	右	いせ・ようろう (伊勢街道) 左 をさ、大がき
㉕	右	南宮道 左 を佐 大がき (南宮道)
㉖	左	牛馬道 (人が通る参道と車馬の道を区別する)
㉗	左	たにぐみ ぜんくわうじ道 (谷汲山・善光寺への道)
㉘	右	いせ やうろう たかだ
㉙	左	せきがはら道 左 やまみち
㉚	左	せきがはら道 左 やま道
㉛	右	せきがはらみち 左 やまみち
㉜	南宮江近道八丁 (約800m) 中山道より	
㉝	右	南宮道 左 せきがはら道 =見性寺境内にあります=
㉞	朝倉道	

①	長束正家陣跡 (五奉行の一人)	兵力: 1,500	西軍
②	毛利秀元陣跡 (毛利本隊を率いる)	兵力: 16,000	西軍
③	安国寺恵瓊陣跡 (毛利秀元の後見役)	兵力: 1,800	西軍
④	吉川広家陣跡 (家康と密かに通じる)	兵力: 3,000	西軍
⑤	浅野幸長陣跡 (五奉行、長政の長男)	兵力: 6,500	東軍
⑥	池田輝政陣跡 (家康の娘を継室)	兵力: 4,600	東軍
⑦	平塚為広居城 (垂井城跡)	兵力: 300	西軍

ふるさと宮代

史跡探訪



まち協史跡PJ
(宮代地区まちづくり協議会)

① 養老～伊勢へ
長束正家陣跡

宮代の地名は

まち協史跡プロジェクト

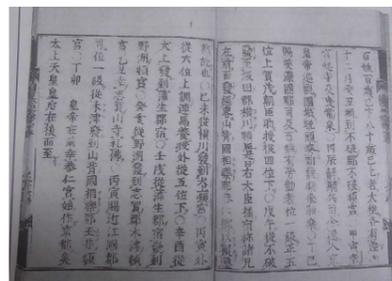
日本で初めての百科事典と言われている「和名類聚抄」によると、美濃国の不破郡には13の郷があり、そのひとつに新居（ニヒキ）郷がある。

「美濃明細紀」に「新井郷南宮鎮座宮代村」と記述されている。すなわち南宮神社のある宮代の地が古くは「新井郷（にいごう）」とよばれ、また同社も府中にあったものが現在地に移されたという伝承もあって、新居郷は新井郷のこと、すなわち宮代のことと推定される。

宮代は相川右岸、東山道沿いに開け、不破郡の大領、宮勝木実（ミヤノスグリノミ）を祀るとされる大領神社があることなどから、不破郡家の所在地と考えられている。また宮代廃寺跡および宮処寺跡に白鳳期の古瓦、伽藍遺物が確認されている。さらに天平12年（740年）の聖武天皇の東国行幸の際の「不破頓宮」も宮代と推定される。宮代という地名そのものが、当頓宮の造営地であったことに由来するという見解もある。これらから、当郷は白鳳期にはすでに郡の中心的地位を占めていたと考えられる。

この古きから伝わる宮代の歴史ある史跡・道標・関ヶ原合戦陣跡等をマップに記しましたので、この機会に探訪しましょう。

郷土歴史大事典”岐阜県の地名” 平凡社より



続日本紀
延暦16年
(797) 成立
【聖武天皇が「宮処寺」に滞在した記録がある】



朝倉山真禪院

行基が創建し、南宮神社（今の南宮大社）の神宮寺となったと伝えられる、天台宗の古刹です。南宮神社同様、関ヶ原合戦の兵火により炎上しますが、三代將軍徳川家光が再建し明治初年の神仏分離令によって現在地に移されました。境内には、国指定重要文化財の本地堂や三重塔、梵鐘の他、北条政子の寄進と伝わる鉄塔があります。



大領神社

壬申の乱で功績のあった不破郡の大領、宮勝木実を祀っています。ご神体は杉の板2枚と言われています。



神田代(みとしろ)神社

御田植神事が明治時代の中頃まで、当社の斉田で行われていました。



大慈寺

室町時代に南宮大社人馬の供養寺として創建されており、首から上の願いを聞いてくれるお地藏様が有名です



宮代廃寺跡(県指定史跡)

不破郡大領宮勝木実の菩提寺とも白鳳期～奈良時代の寺院跡、花崗岩の心礎は三重塔と推定されています。



南宮大社

金山彦の命を主祭神に、旧国幣大社で美濃国一の宮として、また全国の鉱山・金属業の総本宮として、今も深い崇敬を集めています。また社伝では神武天皇即位の年の創建とされており、慶長5(1600)年の関ヶ原合戦で社殿のすべてを焼失しますが、寛永19(1642)年、三代將軍徳川家光により再建され、その建築様式は、和様と唐様を折衷した独特な様式で「南宮造」と呼ばれています。広い境内には本殿・拝殿・楼門など、朱塗りの華麗な姿を並べ、建築物18棟が国の重要文化財に指定されています。年間を通じ大小50余の祭典が行われ、5月5日の例大祭、11月8日の金山祭（ふいご祭り）などの神事があります。



愛宕神社

防火の神として、京都の愛宕権現を勧請しました。



金刀比羅神社

社伝によれば、南宮大社社司職が四国から勧請したといわれています。



正行院

南宮神社神官僧侶の滅罪寺として建立されました。



壬申の乱の大杉跡

壬申の乱の最中に大海人皇子が杉の根本が二つに割れ、そこに逃げ込んだという伝説の大杉がありました。周辺一帯を杉の本といっています。



楼門(国の重要文化財)

壮麗で色鮮やかな朱塗りの門で、随神像と狛犬が参拝者を見守っています。



南宮稻荷神社

境内最奥、朱塗りの百連鳥居をくぐった先に鎮座する摂社です。



北野神社

菅原道真を祀った神社で、京都に倣い宮代の北方に北野天満宮を招き村の守護神としました。千年前に作られた「美濃国神明帳」にすでに名前が出てきます。



吉葛(よきつら)神社

南宮社への勅使が正装に着替えた「衣裳堂」とも言います。



隣松寺

清和源氏の祖、源経基が平将門の霊を弔うために建立しました。不破高校運動場の建設のために破壊された兜塚古墳の石材が門前に並んでいます。



清月院の仏足石

禅宗の尼寺で、境内には元治2(1866)年に建てられたお釈迦様の足跡を石面に刻んだ仏足石があります。文様はお釈迦様の教えを表しています。